

1. 中野らしい産業活性化について
2. 中野駅周辺エリアマネジメントについて
3. 都市の可視化シミュレーター導入について
4. 防災・減災・危機管理対策について
5. その他

令和5年第3回定例会におきまして、立憲・国民・ネット・無所属議員団の立場から一般質問を行います。5のその他はございません。どうぞよろしくお願い致します。

## 1. 中野らしい産業活性化について

今年の第2回定例会中の区民委員会で、中野区産業振興方針（骨子）が示されました。人口は微増、事業所数は減少傾向です。全国的に、だとは思いますが、中野区内企業も同じくコロナで落ち込んだ経済が真の復活を遂げるまでには至っていないのが現状です。既存の経営支援は引き続き、手厚く行っていただくことを願うばかりです。

そして、タイトルにした「中野らしい」産業活性化とは何か。

中野は「はじまりの街」とことあるごとに言い続けています。飲食店、お笑い芸人、役者、絵描き、ベンチャー企業など、中野であれば新しいことにチャレンジできる、思い切って始められる、そんな街だからこそチャレンジャーを応援したい、と思っています。

産業振興方針（骨子）には、もちろん創業やスタートアップ支援、融資あっせんなども主な取り組みのひとつとして記載されております。記載されている内容を深堀していけば、ある程度の効果は出るとは思いますが、どこの自治体もこのあたりは手を付けていますよね。「中野らしい」とは限りません。

先日中野区として、鍋横の呉服屋さんの話を聞き、ビジネスクリエイターに相談を持ち掛け、男性向け着物一式セットをプロダクト化し、呉服屋さんの新たなサービスを生み出すお手伝いをしました。また沼袋の精米店さんの無農薬お米のお話から、赤ちゃん専用米というプロダクトアウトを後押しもしました。これ、実は大変重要で、既存の事業者から新たなサービスや商品、ビ

ジネスチャンスを生み出させること、そしてまだ創業はもちろん事業のタネを保有しているということに気づいてすらいない人や事象に対して、ビジネスを始めようとする気づきやきっかけを与えていく事が重要です。

創業をしようと考えている人に対する経営相談や資金調達支援、販路拡大などはサービスメニューとして存在しますが、ビジネスのタネは見え隠れするのにそれがビジネスにつながるという可能性に気づかせてくれる、創業して経済を動かすことができることをアドバイスしてくれるビジネスクリエイターや事業化アドバイザーがいない。区内の情報をサーチしながら、ビジネスのタネを見つけていくビジネスクリエイターを配し、「はじまりの街」中野の「更なる始まり」を作り上げていく事業化支援を推進してはいかがでしょうか？伺います。

【答弁】 創業期と創業後の事業・販路拡大時期の困難さは区としても認識している。ビジネスクリエイターによる支援は、昨年度から中野区商店街連合会の事業として、売り上げ向上・販路拡大につながるアドバイスを得ているところ。創業支援の拡充に向けて各経済団体との連携を強め、ビジネスクリエイターによる支援についても検討していきたい。

つぎに中野区内の産業について伺います。

骨子に記載されている中野区の産業ですが、果たしてマンガ・アニメの企業が他の地域と比べて多く集積しているのでしょうか。国内のアニメ制作会社約 800 社のうち、約 150 社が杉並区内に集積、サンライズなどの大手もいますし、鬼滅の刃などで有名となったユーフォーテーブルは本社を杉並区に移転したばかりです。杉並はすでに「アニメの街・杉並」を打ち出しています。豊島区もマンガ・アニメの原点があった街として「トキワ荘」を再現、地位を確立しつつありますし、また、池袋の BL 向け店舗などが多数ある「オトメロード」も人気です。

もともと「ヲタクの聖地」と言われている秋葉原を筆頭に、都内にはサブカルの聖地が大きく 3 カ所あり、先ほどの池袋は「乙女の聖地」、わが街中野と言えば鉄道模型・フィギュア・古本・プラモデルなどのお店が軒を連ねるブロードウェイがある関係で「マニアの聖地」と言われていますね。ちなみにこの 3 エリアは順番に、2 次元の街、2.5 次元の街、3 次元の街、とも言われています。

中野には確かに「ゴルゴ 13」のさいとうプロや「タッチ」「みゆき」のあだちプロ、トムスやマッドハウスなどのアニメーション制作会社、そのほかブシロードなどもあります。この企業た

ちは大手ゆえ、わが道を進んでいます。確かに漫画やアニメは中野区にとって大きな観光資源のひとつではありますが、それはブロードウェイを中心としたサブカル文化とは似て非なり、です。

中野の街づくりを考える上で、参考とするのはむしろ「秋葉原」「池袋」ではないでしょうか？歩行者天国、コンベンションホールへの動線、イベントづくり、人気店の誘致、エリアマネジメントなどの街づくりを 2 つのエリアから学びつつ、独自のマニアックシティ中野を軸ににぎわいを作っていくべきと考えますが、いかがでしょうか？

【答弁】中野ブロードウェイが象徴的な中野のマニアック性は、訴求性があり、魅力のひとつであると認識している。他方、中野には様々な人や資源、文化があり、それらが共存しているところも中野の魅力だと捉えている。秋葉原や池袋とは異なり、様々なものが並立し、一つの大きなマニアック性の魅力を様々な主体や手段で発信することで、にぎわい創出につなげたい。

四季の森公園とサンプラザシティのホール上部にできる公園とが空間でつながるなど立体的なものとなることから、そこを歩行者天国的にうまく使えると面白いとも思います。目的地にたどり着くまでのワクワク感づくりの演出なども視野に入れ、まちづくりを検討頂きたいところです。

つぎに、区内商店街の活性化についてです。

今までの商店街の活性化に関する支援方式は、キャッシュレスしたい人！イベント助成欲しい人！とお題を決めた手上げ方式でした。しかしながら、本当に各商店街はそれぞれ今何が欲しいか、困っているかなどは、規模、地域性、根付いた歴史などで個々に違うと思います。商店街ごとに調査をし対応を検討してみたら？と思います。課題や問題点は商店街それぞれ。ど真ん中に有名カフェが欲しい、水はけの良い赤い道路にしてほしい、アーケードにしたい、メタバース上で街を実現したいなど、各商店街の方向性を知り、それぞれに手を打つ手法です。かねてより提案しているお店と居住空間を分離して貸し出せるようにする空き店舗化支援策も含めて、検討を進めるべきと考えますがいかがでしょうか？伺います。

【答弁】区内には現在 64 の商店街があり、その歴史や成り立ち、立地などにより、それぞれが様々な課題を持っていて、一律の対応では解決できないことは認識している。空き店舗の活用については、現在閉鎖している店舗と居住空間を分ける支援だけでは解決できない複合的な要因もある。毎年度実施している商店街チャレンジ戦略支援事業で各商店街の意向を聞きながら、例えば区内でモデル商店街を設定して、当該商店街の店舗などのリノベーションを実施するなど、新

たな産業振興方針の検討を深める中で考えていきたい。

そして中野区独自のデジタル地域通貨の早期実現、前回の一般質問時、前向きに進めるとの答弁を頂いております。ボランティアポイントがデジタル地域通貨に換金できるなどの新しい機能についても実現すべきですが、現在の進捗状況はどのようになっていますでしょうか？伺います。

【答弁】令和 6 年度中のデジタル地域通貨事業開始に向け、現在先進自治体へのヒアリング、デジタル地域通貨のプラットフォーム運営事業者の調査、関係団体との協議を進めている。デジタル地域通貨を普及、発展させるためには、利用可能店舗を増やすほか、利用者への動機づけが不可欠。この点で区の事業やボランティア活動と連動したコミュニティ通貨として運用していく事が有効かつ必要と考えている。

中野区独自のデジタル通貨の早期実現は、経済の活性化だけでなく、大切な税金を区民に限定した形で還元できる仕掛け作りにも必要なインフラになると思いますので、早期実現に向けて注力いただきたく思います。

つぎにシティプロモーションについてです。

先日、中野区観光協会が作成した「つけ麺マップ」が出来上がり、区役所や中野駅などで無料配布しておりますが、大人気ですぐに無くなります。「中野区をつけ麺発祥の地として街おこし」的な切り口で、大手新聞社や民放テレビ局などがこぞって報道していました。つけ麺が生まれた「大勝軒本店」の坂口大将も連日取材が入り、話題となっています。つけ麺マップのボランティア委員会から派生した「日本つけ麺学会」なる任意団体も生まれ、このこともメディアで報道されるほどです。過去に東商主催の「つけ麺めぐり」などもありましたが、街を挙げて行うことがメディアを動かすのだと、肌で感じました。

産業振興方針の骨子にも、まだまだ掘り起こされていない資源がある、と記載されています。ピンポイントで「カラオケマシン発祥の地」「焚火の歌発祥の地」ではなく、「カラオケマシンが生まれ、北島三郎さん率いる北島音楽事務所が中野に誕生し、輪をかけて演歌ブームを作り、自称演歌歌手の人たちがたくさんいるよ」とか、「作詞した巽聖歌さんの住んでいたところや良く通った喫茶店、たたずんでいた大木などが広がっているよ」など、つけ「麺」マップのように点ではなく「面」で捉えていく事によって、大きなシティプロモーションとなるのではと思います。面で捉えられる観光資源の早期洗い出しが必要だと思うのですがいかがでしょうか？

【答弁】中野にある資源やテーマ、それらの点があるいは集積を面で捉え、内外に発信することは、都市観光を促進していく中で有効であると認識している。区内事業者と区の協働組織であるナカノミライブプロジェクトにおいても、そういった視点を踏まえた卵と情報発信に努めている。今後は、ナカノミライブプロジェクトのワークショップに加え、中野区観光協会とも連携しながら「中野区認定観光資源」を見直す中で、面で捉えることが有効な資源を探っていきたい。

ふるさと納税で流出してしまう 27 億円の穴を埋める大きなアイデアが生まれるのでは？と思いつつ、次の質問に移ります。

中野駅周辺、西武新宿線連続立体交差事業など、中野区全域が大きく変わっていきます。中野サンプラザが閉館し、これから中野区全体がどのような発展を遂げるのか、そして中野区全域にどんな歴史・文化・芸術・発信拠点などがあるのか。中野区全域を面で捉え、TO マガジン、るるぶ中野、東京人中野区特集のような、中野区の新旧情報と未来が詰まったご当地本、しばらく出ておりませんが、出版社とコラボする、企画を持ち込むなどして、今こそ手掛けるべきタイミングだと思うのですが、いかがでしょうか？伺います。

【答弁】中野駅周辺の再整備が進んで中野が大きく変わっていく中で、区民から「近い将来の街がどうなっていくのかわからない」との声が少なくない。一方インバウンドを含め、中野への来街者が増えてきている中で「中野駅や東中野駅周辺以外の情報が少ない」という意見もいただいている。中野サンプラザが閉館となったこのタイミングで、中野の歴史に触れ、また中野駅周辺や西武新宿線沿線がどう変わっていくのか、さらには中野区の全域をカバーした情報を発信していく事は、都市観光としても、シビックプライドを醸成する上でも有効であると考え。区民、来街者双方に喜ばれる「ご当地本」の発行に向けて検討を進めたい。

続きまして、中野大好きナカノさんについて伺います。

そろそろ声を出してみたらいかがでしょうか？ナカノさんのVチューバー化です。今はAI音声で声が出せる時代。ボカロしかり、モヤさまの声しかり、です。モヤさまの声は中野セントラルパークにも入っているHOYAさんの音声合成ソフトを使っています。ナカノさんが声を出せるようになることにより、シティプロモーションの幅が大きく広がっていきます。ぜひ取り組んでいただきたいのですがいかがでしょうか？

【答弁】シティブロモーションキャラクターである「中野大好きナカノさん」は商品化などイメージ利用が増え続けていて、認知度も高まりつつある。使用ガイドラインに沿った形で、さらにイメージ使用、声や動きを付けるなどの二次創作が行われ、中野の魅力を様々な形で発信していく事は望ましいと考える。実際に声や動きを付けて利用したいとの相談も受けていて、また区としても区内のアニメ・コンテンツ事業者と協力しながら声を付ける検討を進めていく。

つぎに、新サンプラザのエリマネ施設については、マンガ・アニメなどの文化情報発信拠点を作ることは賛成ですが、それ以外にも、低階層の商業エリアには中野らしい部分をご検討いただきたいところです。新しい中野サンプラザの商業エリアには、幅広い客層を獲得するためにハイエンドショップはもちろん必要ですが、そのほか例えば、地域の自慢の飲食店たちが運営する中野フードコートや地場で獲れた野菜のマルシェ、ラーメン博物館やカレーミュージアムのような全国からの人気店を集めた「(仮称)つけ麺スタジアム」のような中野の特徴を具現化したエリアを作ることが、来街者にもっと中野区のことを知ってもらう、楽しんでももらう仕掛けとなります。  
本件、施工予定者に検討を進めて頂くのはいかがでしょうか？

【答弁】中野駅新北口に整備される拠点施設については、区として求める都市機能を勘案しながら民間活力を生かした整備を誘導するもの。現在検討中の新たな中野区産業振興方針において、個店支援の在り方について検討しているところだが、当拠点施設内の具体の店舗内容や運営方法については拠点施設整備を担う民間事業者が決定していくため、要望の趣旨を踏まえ、中野の個性が生かされた施設計画となるよう、施行予定者に対して必要な要望や調整を行っていく。

伺いまして、この項の質問を終わります。

## 2. 中野駅周辺エリアマネジメントについて

かねてより、エリマネに関しては令和4年9月の第3回定例会などでも伺っていますが、野村不動産を中心とした中野駅周辺ディベロッパー、中野セントラルパークを持つ東京建物のほか、経済界の代表者らで、地域の空地がどのように活用できるか、もともとある地元企業や商店街がどのようにより活性化していけるのか、などを協議会で考え、進めていく必要があるとつねづね申しております。

区長答弁で、中野駅周辺エリアマネジメント協議会は、事業完了までの期間及び事業完了以降のまちの価値・魅力を持続的に維持・向上させるもの、とのことでした。

現在のステータスは、前回の一般質問でもお話しした通り、新サンプラザができるまでの漸減する中野駅周辺経済をどのように補填していくのかを進めている時期です。中野サンプラザシティエリアマネジメント準備会というツイッター（X?）があり、@sunplaza\_city というアカウントですので施工予定者が運営していると思われませんが、1500 程度のフォロワーで、しかも食べ物やイベント、キーマン情報を発信しているのが中心です。この活動以外、新サンプラザができるまでの漸減する中野経済の補完策、他に施工予定者が行っているものや活動はございますか？

【答弁】施工予定者によるサンプラザ地区のエリアマネジメント活動は「さよなら中野サンプラザ音楽祭」の実施以降は工事期間中に様々な仕掛けによってイメージアップを図るものと聞いている。そのほか、中野サンプラザの DNA を継承すべく、内観、外観の記録写真や、過去の思い出写真を集めたフォトアーカイブの制作、ウェブや SNS を活用した情報発信、区の事業への参画など、様々な取り組みについて検討しているとのこと。

中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備の民間事業者募集においてサンプラザ地区のエリアマネジメントについては「計画段階から整備後を見据えたプロモーション活動を含めた中野サンプラザの DNA を継承し、中野の新たなブランド形成にするエリアマネジメント活動内容」と「地元組織等と連携したエリアマネジメント体制および活動に必要な資金調達の方法」を重点項目として提案を求めておりましたが、施行予定者からはどのような提案があったのか伺います。資金調達の方法についても具体的にお答え下さい。

【答弁】施工予定者におけるエリアマネジメント活動の提案内容は、サンプラザ解体までの間、工事期間中、竣工後、といった事業進捗段階に応じた提案となっている。「さよなら中野サンプラザ」のイベントに合わせたプロモーション、工事期間中のにぎわい創出、仮囲い等を利用した現地周辺のにぎわいづくりのため、施行予定者による搬出として再開費事業費から年間 2 千万円程度、竣工後は拠点施設に整備されるエリマネ施設を拠点とし、周辺の開発における活動との連携を含めて、事業性に応じて年間 6 千万円程度の資金拠出を行う提案だった。

施工予定者の当初の提案内容が、昨今の物価高騰などを理由に次々とグレードダウンしているように感じております。中野サンプラザ地区のエリアマネジメントは、将来に渡っての提案となっているはずですが、再開費事業の拠点施設が完成してから本格的なエリアマネジメントがスタートすると思いますが、完成後も当初提案通り、長期的に継続して進めていただかなければなりません。このことにつきましては、協定や覚書なども交わすことも必要かと考えますが、施行

予定者に対して区はエリアマネジメント活動をどのように担保いただくのか、お考えをお聞きして、この項の質問を終わります。

【答弁】区は施工予定者と事業推進に関する協定を締結していて、この基本協定には提案内容の継承について言及する項目があり、当該項目にはエリアマネジメントの推進についても包含されている。今後は中野駅周辺エリアマネジメント協議会で検討を進めている中野駅周辺全体のエリアマネジメントに対して、波及効果が生じるような活動を要請したいと考えている。

### 3. 都市の可視化シミュレーター導入について

中野駅周辺も、西武新宿線沿線まちづくりも含め、現在、100年に1度の街づくり真っ只中です。さらに100年後を見据えた区有施設整備計画も絶賛進んでいますが、検討を進めていくのは結構大変ですよ。住所と土地のサイズ、平面図と築年数などのデータとにらめっこしていても頭の中ではなかなかその時間軸のあるパズルは完成できません。

そんな中、国土交通省が秘密兵器的なプラットフォームづくりに取り組んでいます。PLATEAU（プラトー）です。プラトーは、国土交通省が主導する3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクトで、まちづくりのデジタル・トランスフォーメーションを推進する上で欠かせないプラットフォームとなると言われていますし、AIを活用した自動生成なども近い将来できるようになると聞いています。

区有施設整備を検討する際など、中野区内の区有施設や区有地、国有地や都有地などがビジュアル的にプロットでき、時間軸スライダーでどの施設が更新時期を迎えるか、どの土地の定借権が切れるかなどがビジュアル的にわかるはず。東京都23区の3D都市モデルのオープンデータの公開もされ、すでに横須賀市などで導入も始まっているなど、注目度は高いです。幅広く活用できるPLATEAUを活用しながら中野区の未来の街づくりを進めたいかがでしょうか？伺います。

【答弁】プラトーは都市計画や街づくりなどの検討において活用できる可能性があることは認識している。今後、区として政策立案や区民への説明等での活用について検討したい。

また、現実の未来とバーチャルの未来の可視化、いわゆるSociety5.0の実現を視野に入れつつ、これからはわかりやすいまちづくりを進めていただきたいと願って、この項の質問を終わります。



#### 4. 防災・減災・危機管理対策について

台風 6 号が沖縄に接近しようとしていた 8 月 1 日の正午過ぎ、中野区も局地的な激しい暴風雨に見舞われ、中野駅南口の中野二丁目土地区画整理事業の一環として行われていたビルの解体工事現場の足場が大きく崩れ落ちて、渋谷行きバス乗り場周辺に落下するという事故が発生しました。私も崩落から約 1 時間後に地域の防災リーダーとして現場を見に行き、情報を収集し、自分の SNS などでも拡散致しました。まだ危険であること、一部エリアの封鎖、バスのダイヤの乱れ、バス停が使えず乗降場所が変わったことなどを利用者らに知らせるためです。

電話ボックスはペシャンコ、バス停の屋根もつぶれるような大きな事故でしたが、不幸中の幸いで、人的な被害は奇跡的にありませんでした。事故が起こったときの天候は、うねるような風、横殴りの雨で、到底傘をさして道路を歩けるような状況ではなかったことで、みなさん駅改札前の屋根付きの場所に待機しておりました。

この事故、横殴りの雨が降っていなかったら、あの 64 番の渋谷行きバス停には多くの人が並んでいたにほかなりませんし、家路を急ぐ方々も現場辺りを通っていたに違いありません。

中野駅周辺の一連の再開発事業について、何度も一般質問で、工事ヤードが断続的に続く中でも区民は毎日駅を利用するので、安全で安心な歩行空間を担保していかなければならないと申してきたのに、このような事故が起こってしまったわけです。歩行者は、バスやタクシーの通行、後ろからの自転車だけでなく、上からの落下物に関しても恐怖感を植え付けられてしまいました。きっとこの恐怖はしばらく取れません。

地震が起こった、洪水が発生したなどの有事の際には、事細かに危機管理マニュアルにも連絡体制や行動、対策委員会の設置のことなどがしっかりと記載されていますが、気象の急変時などについてはほとんど触れられておりません。とりあえずこの事故の原因の報告は突風のせいとありましたが、この事故の直前のような場合、台風 6 号情報や関東の暴風雨や落雷の可能性、雨雲の通り道情報など、様々なメディアやサイトで情報収集を集中的に行い、シミュレーションや対策などの事前検討を進め、防災の観点を取り入れるフェーズがあっても良いのでは？と思うのですが、いかがでしょうか？伺います。

【答弁】気象状況については、気象庁とのホットラインや民間の気象情報会社からの情報、大学

が開発した洪水予測システムなど、夜間や休日を問わず、積極的な情報収集に努めている。今後も、最新の技術を取り入れた気象情報の収集や分析を行い、区の災害時における情報共有や、速やかな災害対応に生かしていきたい。

事前準備という観点から、中野区が関与する工事現場の状況把握、特に地震、大雨、暴風、暴風雨などが起こったときの危険度などをランク付けし、対応策などを個々に想定しておくことが肝要かと思えます。

直接的に工事現場に対して区として指示を出すことは難しいですので、予め調査しておいた危険度の高いエリアの周りを通行止めにするなどして、減災につなげていくなども視野に入れて頂きたいと思えますが、いかがでしょうか？

【答弁】災害により、危険な状況となる場合や、区民からの情報を得た場合には、速やかに警察署および消防署等へ情報提供することや、区職員を派遣するなどの対応を図っている。今後も更なる連携強化に努めたい。

今や AI が災害を予測する防災 AI というカテゴリーでは、台風や地震、津波などを予測、ウェザーニューズは降水分布を可視化する防災 AI プロジェクトが進められています。対策を、より効果的に行うために、より精度の高い「予測」が必要不可欠と考えます。この分野に関しても AI 導入の検討を進めてみてはいかがでしょうか？伺います。

【答弁】災害予測における AI の導入については、先進事例を収集し、研究していく。

つぎに、防災リーダーについて伺います。平成 28 年度から 113 防災会で合計 228 人もの防災リーダーを輩出しました。人命救助、放水や消火器噴霧、担架や AED 使用方法を学んだりし、自助・互助・共助・公助の精神で地域の防災に奔走していることでしょうか。わたしもこの機会に防災リーダーになり、防災士の資格も取得しました。

しかしながら、8月1日の足場の崩落事故発生時には防災リーダーらしき人は現場にいませんでした。今回のように昼間に事故などが起きた場合、地域で動ける防災リーダーが少ないのでは？と考えます。いざというときに昼間に地域で動ける防災リーダーが重要です。そこで伺います。商店街をターゲットに防災会設置を推進し、商店街の防災リーダーを育成することを新たに進められてみてはいかがでしょうか？伺います。

【答弁】昼間に就業者が昼間の災害発生時に地域で活動していただくことは重要であると認識している。商店街を対象とした防災会の設置は考えていないが、今後、防災リーダーが不足している地域や、活動実績を踏まえて、新たな育成について検討を進める。

つぎに、現在の防災リーダーの地域格差について伺います。東部地域は14の防災会があって防災リーダーは35人など多いところもあれば、上高田地域は8の防災会があって防災リーダーは7人など少ないところも存在します。地域の防災リーダーの平準化を図るため、またアクティブな防災リーダーが誰で、地域で何人いるのかなどの把握をし、その凸凹を埋めるという観点からの再度、防災リーダー育成事業を行ってみてはいかがでしょうか？

【答弁】防災リーダーは現在、区民活動センターを基盤とする15地域に満遍なく在籍しているが、防災会単位では偏りもある。また、養成した防災リーダーも、転居や高齢を理由に辞退者も出てきていることから、今後、活動実績などを踏まえた追加育成を検討していく。

区民の安全で安心な生活空間を少しでも守っていけるよう、私も防災士として、防災リーダーとして高い意識を持ち続けていきたいと付け加え、すべての一般質問を終わります。